

令和5年度

海陽中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①授業規律を確保し、わかる授業、意欲を引き出す授業を実践する。
- ②学習習慣を定着させるとともに、効果の上がる勉強方法を身につけさせる。
(家庭学習の充実)

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教務主任 百々 佳代	委員	1学年主任	大崎 綾子
		2学年主任	丸岡 弘典
		3学年主任	鳥澤 和佳

校長

龍田 雅和

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を問う問題に対しては、意欲的・積極的に取り組むことができる。 ●学力の2極化傾向があり、家庭学習が定着していない生徒もいる。	①積極的に授業に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。 ②家庭学習が毎日の生活の中に定着している。	①各教科ごとに知識・技能の定着の様子を確認する(小テスト等)。定着が不十分な生徒については、個別に指導していく。 ②家庭学習調査を実施する。適切な課題を提示したり、個に応じた指導を工夫したりする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○求められる答えが明確なものや、単純化されたものについては、積極的に取り組み発表することができる。 ●語彙が少なく、自分の考えを筋道を立てて説明することや、相手にわかりやすく伝え表現することに課題がある。	①自分の考えを、他の考えと比較して説明したり、文章表現したりすることができる。 ②自分なりの考えをもち、他者とのコミュニケーションを大切にしながら、思考の幅を広げ、学びを深めることができる。	①授業の中で、考え方を説明したり、知識・技能を活用したりする問題を意図的に取り入れる。 ②読書活動の習慣化を図り、語彙を習得させ、グループ活動などを適宜取り入れて、他者との意見交換の場を設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては、真面目に取り組むことができる。定期テスト前の課題の提出等も熱心に取り組んでいる。 ●自ら課題を見つけて、目標を設定したり、将来への展望を持って意欲的に取り組んだりする姿勢に乏しい。	①計画的に学習に取り組み、わからない課題や不得意な分野の学習にも、粘り強く取り組むことができる。 ②将来への展望をもち、学習に対して自分なりの目標を設定し、努力することができる。	①学習計画を立てさせ、個別にアドバイスをする。各教科の中でどのような内容に苦手さを感じているのかを把握し、授業の中でアドバイスをしていく。 ②総合的な学習の中での体験活動や、町内の外部講師との連携を通して、キャリア教育の充実を図り、将来への展望を持たせる。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

